

昭和63年度遺跡発掘調査概報

大岩田村ノ前遺跡

久玉遺跡

松原地区第V遺跡

都之城本丸跡

貴船寺跡(尾崎第1遺跡)

1989

都城市教育委員会

昭和63年度遺跡発掘調査概報

大岩田村ノ前遺跡

久玉遺跡

松原地区第V遺跡

都之城本丸跡

貴船寺跡(尾崎第1遺跡)



1989

都城市教育委員会

序

この報告書には都城市教育委員会が昭和63年度に実施した5件の埋蔵文化財発掘調査の概要を掲載しております。

さて、近年の全国的な発掘調査件数の増加は目を見はるものがあります。都城市もその例にもれず、昭和59年度から現在まで20数件の発掘調査を実施しております。

本書に掲載した遺跡は大岩田町の大岩田村ノ前遺跡、郡元町の久玉・松原地区第V遺跡、都島町の都之城本丸跡、梅北町の貢船寺跡の5遺跡ですが、いずれも中～近世の都城盆地の歴史を知る上で貴重な資料を提供しています。

埋蔵文化財をはじめ郷土の文化財は生きた歴史教材として、広く市民に活用していただく必要があります。そのため本書は5か所の遺跡の調査によって見つかった遺構・遺物を写真図版を出来るだけ多く利用し、紹介しております。

本書を通して市民の皆さんが埋蔵文化財に対して深い関心と愛情を寄せられることをお願いいたします。

最後になりましたが、発掘調査及び出土品整理の際、御指導いただいた先生方、発掘調査に従事して下さった作業員の皆様に深く感謝申し上げます。

平成元年3月

都城市教育委員会
教育長 久味木福市



〈表紙解説〉

都之城繪図

天和2年に都城島津家家臣、加藤半右衛門為清が書写したもの
を大正8年益田玉城が写した、都之城繪図である。

例　　言

1. 本書は昭和63年度に都城市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の概報である。
2. 掲載した遺跡は都城市大岩田町所在の大岩田村ノ前遺跡、郡元町所在の久玉遺跡、松原地区第V遺跡、都島町所在の都之城本丸跡、梅北町所在の貴船寺跡（尾崎第1遺跡）の5遺跡である。なお、巻末には昭和59年～63年度の都城市的埋蔵文化財発掘調査一覧表を掲載した。
3. 本書の執筆は各遺跡の調査担当者が分担してあたった。
4. 本書の編集は都城市教育委員会社会教育課が行った。

目　　次

I. 本書掲載遺跡一覧表	1
II. 本書掲載遺跡位置図	2
III. 大岩田村ノ前遺跡	3
IV. 久玉遺跡	6
V. 松原地区第V遺跡	12
VI. 都之城本丸跡	14
VII. 貴船寺跡（尾崎第1遺跡）	17
VIII. 都城市昭和59～63年度埋蔵文化財発掘調査一覧表	19

I. 本書掲載遺跡一覧表

遺跡名	大岩田村ノ前	遺跡番号	5030	所在地	都城市大岩田町村ノ前
調査目的	斎場建設に伴う発掘調査				
調査期間	S.63.11.10~12.7	調査面積	4,500m ²	調査員	重永 卓爾
遺跡名	久玉	遺跡番号	4006	所在地	都城市郡元町字久玉
調査目的	都市計画郡元・祝吉地区区画整理事業に伴う発掘調査				
調査期間	S.63.6.3~11.15	調査面積	7,000m ²	調査員	矢部 喜多夫
遺跡名	松原地区第V	遺跡番号	4005	所在地	都城市郡元町字松原
調査目的	都市計画郡元・祝吉地区区画整理事業に伴う発掘調査				
調査期間	S.63.~11.16~12.20	調査面積	2,500m ²	調査員	矢部 喜多夫
遺跡名	都之城本丸跡	遺跡番号	5027	所在地	都城市都島町字本城
調査目的	モデル木造建築物建設に伴う発掘調査				
調査期間	S.63.5.16~8.16	調査面積	1,500m ²	調査員	桑畑 光博
遺跡名	貴船寺跡(尾崎第1)	遺跡番号	7041	所在地	都城市梅北町字尾崎
調査目的	市営住宅建築に伴う発掘調査				
調査期間	S.63.8.4~10.4	調査面積	3,500m ²	調査員	桑畑 光博

*遺跡番号は市内遺跡詳細分布調査の遺跡地名表によった。

II. 本書掲載遺跡位置図

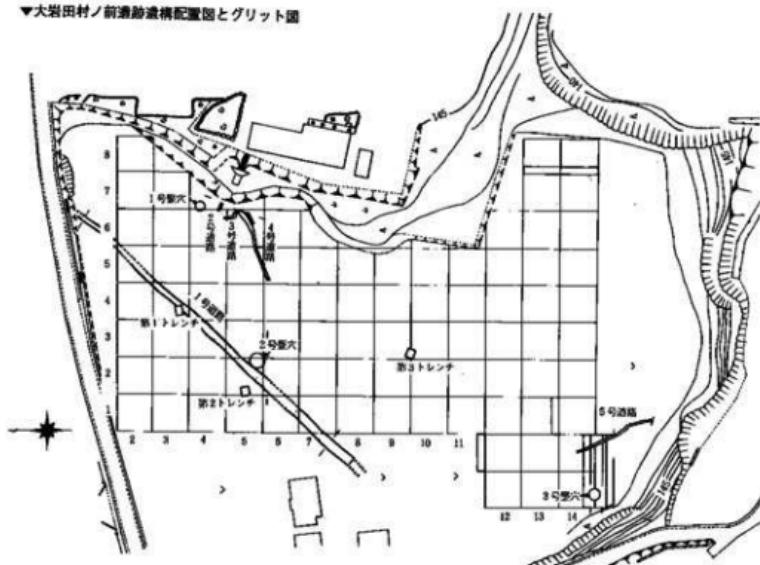


1. 大岩田ノ前遺跡 2. 久玉遺跡 3. 松原地区第V遺跡
4. 都之城本丸跡 5. 貴船寺跡（尾崎第1遺跡）

III. 大岩田村ノ前遺跡

大岩田村ノ前遺跡は大淀川と梅北川の合流地点より、南に約700m、低湿地との比高差約19mの台地縁辺部に位置する。今回の発掘調査で、縄文時代後・晩期のピット群、弥生時代中・後期のピット群若手が見い出された。さらに、縄文後期と推定される道路3本、及び、古代から中世にかけての幹線道路1本、小規模のもの1本が検出された。これらの事実によって、この台地は縄文後・晩期より集落として利用され、古代末中世には幹線道路が敷設されていたものと考えられる。本地域は特に中世の南北朝期に壇の城として大岩田城の存したところであり、また、北郷氏が都城を整備した戦国時代には、木城の城戸を結ぶ大岩田口に位置したところでもある。このように、この遺跡周辺は歴史時代には諸県郡と財部院の境にあり、交通の要衝にあたっていた。本遺跡発見の1号道路は規矩性を有する幹線道路であり、この走行延長内にかつての駅家であった島津駅も存在したであろう。遺跡全般に耕作による地層の攢乱がみられたものの、縄文晩期の豊穴遺構、弥生中・後期の豊穴遺構の完掘は当該期における貴重な資料を提供し、また、松原遺跡に統いて文明軽石層の存在が本地域の中世遺跡の遺構検出や年代の決定に有効であることが再確認された。(重永)

▼大岩田村ノ前遺跡遺構配置図とグリッド図





▲縄文晩期 2号竪穴造構 ピット内土器出土状況



▲O-14区 Ⅲ層上部弥生土器底部出土状況



▲第Ⅱ区 ピット群（主に縄文後～晩期）



▲第Ⅰ区 ピット群（主に縄文後～晩期）



▲1号道路(12~15C)西南部の土層断面



▲1号道路文明軽石下覆土内出土の平安末期陶器片



「天聖元年」(北宋開寶)と書



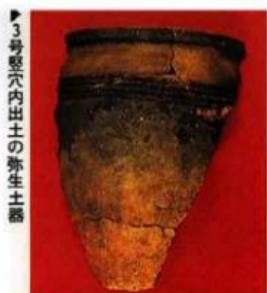
▼1号道路を西南部から望む



▲大岩田村ノ前遺跡全景（西側上空から）



▲第2トレンチ出土の弥生土器



▲3号竪穴内出土の弥生土器



▲第2トレンチ出土の弥生土器



▲2号竪穴内出土の弥生土器



▲6-6区出土の縄文後期土器



▲3号竪穴内出土黒髮式系變形土器



▲5-7区出土打撲石斧(砂岩)



▲2-4区出土石鎌(頁岩?)

IV. 久玉遺跡

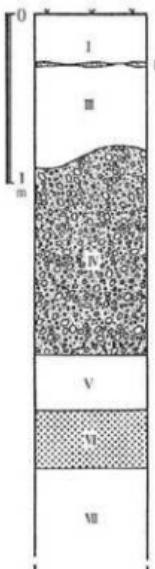
久玉遺跡は都城市街地を形成している台地の北縁に立地し、周辺には松原地区遺跡群がありこの郡元地区一帯が中世から近世にかけての遺跡である。当遺跡の基本土層順序は第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層白ボラ（文明期に桜島より噴出した軽石）、第Ⅲ層黒褐色土、第Ⅳ層御池ボラ、第Ⅴ層漆黒土、第Ⅵ層アカホヤ、第Ⅶ層明黒褐色シルト…と続く。遺物包含層は第Ⅲ層黒褐色土、検出面は第Ⅳ層御池ボラ上面である。出土遺構は大溝、溝、道路、掘立柱建物、井戸、竪穴遺構、土塙墓、ピット等で遺物は石鎌、古墳時代の土器、青磁、白磁、青花、染付、備前、東播系捏鉢、土師器、石鍋等である。

遺跡はおおよそⅢ時期に区分できるようで、その主体は自然地形を利用して「コ」字型に大溝を廻らした（推定）館跡で、この大溝によって区画された面積は推定6,000m²程と思われる。館に付属するものとして大溝に近接して3号溝が、その内側に4号溝が内走している。他、5・6・7・9号溝、5号井戸、1号竪穴遺構が同時期に存在していたと思われる。館の存続時期であるが大溝や溝の埋土に白ボラが堆積していることから、文明（15世紀後半）以前であることは明らかで、堆積部位が中位であることから廃絶後かなりの時間が経過しているようである。

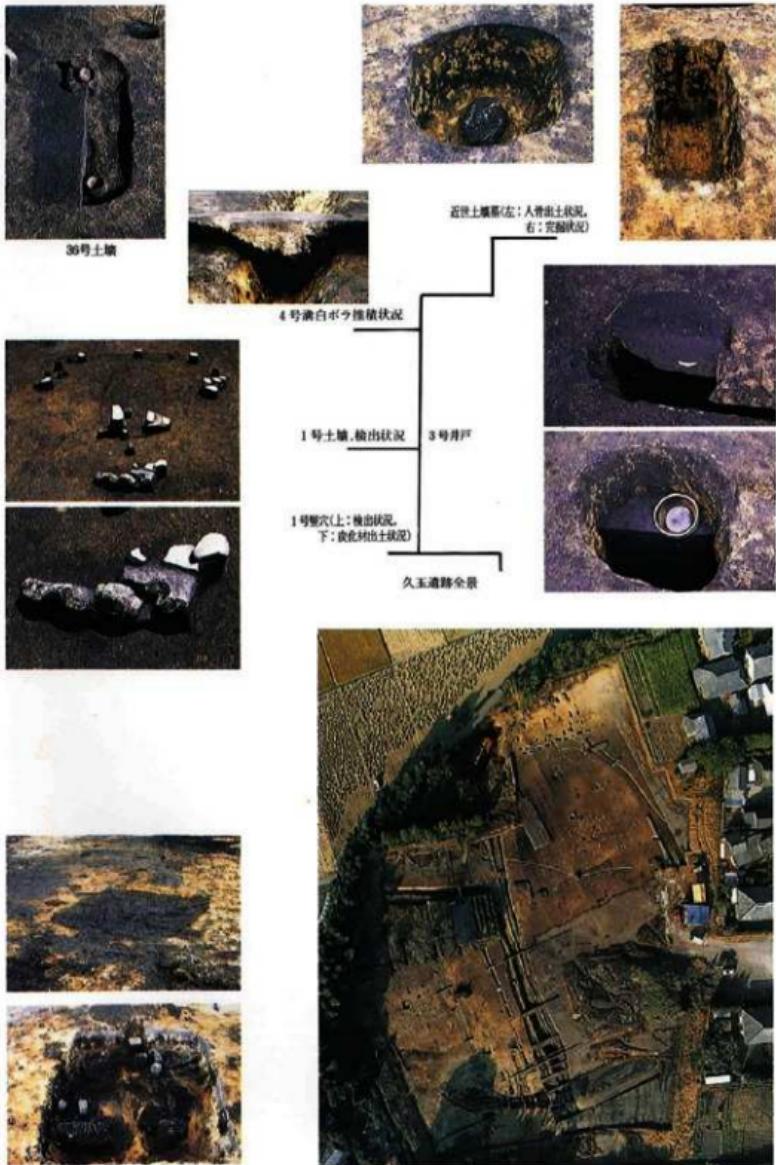
また、これより以前の遺構として1・2号溝、3号井戸と6号掘立柱建物等がある。次に以後（近世）の遺構として調査区域を南北に走行している道路と北東側に土塙墓群がある。（矢部）



久玉遺跡空中写真



基本土層 柱状図







V. 松原地区第V遺跡

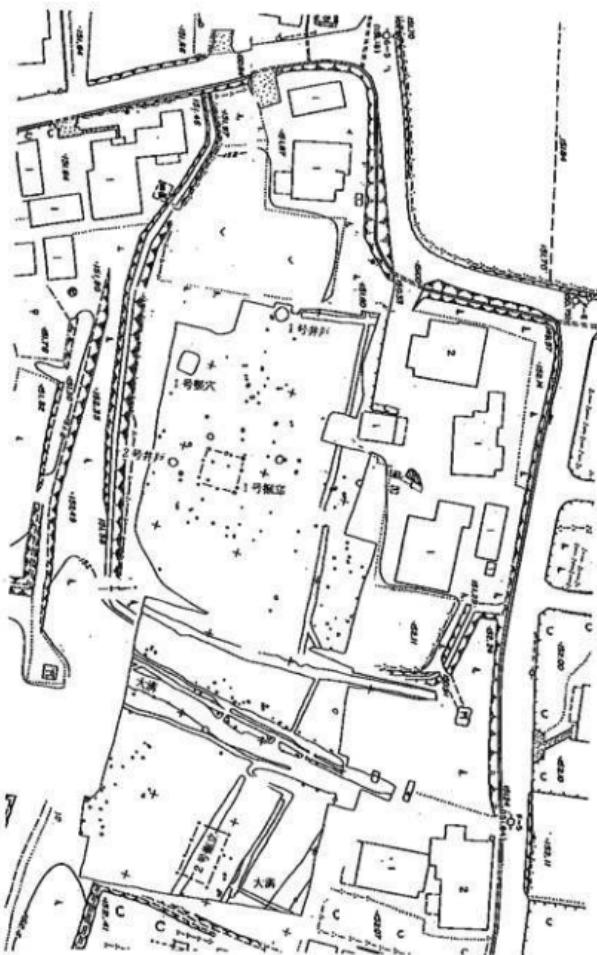
松原地区遺跡群は久玉遺跡と同じ市街地を形成している台地の北縁に立地している。当遺跡の北側に松原地区第IV遺跡が西側には松原地区第III遺跡があり、松原地区において第5次の発掘調査である。遺跡は中世から近世にかけての集落跡で遺構は掘立柱建物、井戸、大溝、溝等が遺物は青・白磁、国内陶器、土師器等が出土している。調査面積が2,000m²程であったため遺跡の全貌を把握することはできなかった。(矢部)



主な出土遺物



松原地区第V遺跡航空写真



松原地区第V遺跡遺構配置図

VI. 都之城本丸跡

都之城跡は都城盆地の中央部、市街地を北流する大淀川西岸の台地東端に位置し、東側の水田面とは比高差約10mを測る。この城郭は北郷氏（都城島津氏）の都城盆地統一のための拠点であると同時に、島津氏の日向への前線基地という性格も有していた。

今回調査を行ったのは「本丸跡」と呼ばれている本城郭の主郭部の北側約1/3である。検出された遺構は、通路跡、柱穴内に礎石を持つ建物跡、墨書き土器の埋納された地鎮・籠壇の遺構や様々な形態の土壤等があり、14C後半～17C初の土師器をはじめ舶載や国内産の陶磁器が多数出土している。（柴畠）



▲都之城本丸跡を東側上空から望む

▼都之城跡周辺地形図



都之城本丸跡



▲遺構検出状況（南から）



▲道路発掘状況（南から）



▲3号通路西側軽石の石段



▲3号通路軽石の石垣



▲37号土塁（円形タイプ）



▲70号ピット内削礎出土状況



▲64号土塁（方形タイプ）



▲3号通路壁土内底洗削土状況



▲2号通路壁土内白垢出土状況



▲1号通路軽石の石段



▲遺構配置図 (S=1/600)

0 10m



▲1号建物跡柱穴内礎石



▲跳堆通路内軽石基盤土器出土状況



▲2号建物跡



▲2号建物跡柱穴内礎石（軽石）



▲青磁蓮弁文碗
700号ピット内出土



▲青磁酒海壹



▲飛青磁底部破片



▲白磁菊花皿
2号通路埋土内出土



▲染付



▲褐釉陶器(双耳壺?)



◀龍文壺破片



▲天目焼



▲常滑燒窯



▲備前焼各種

左上2点は窯、他はすり鉢



▲美濃焼



▲瀬戸焼



▲唐津焼鐵絵壺



▲唐津焼皿

3号通路埋土内出土



▲輪宝墨搭土器 瓦塙ピット内出土



▲土師器各種

VII. 貴船寺跡（尾崎第1遺跡）

都城盆地の南部、梅北川（大淀川支流）東岸の南向きの舌状台地上にある。この地は「庄内地理志」を見ると貴船寺の存在が記されている。今回の調査によって、古墳時代の竪穴住居跡2軒、中世の溝状造構4条、掘立柱建物跡2棟、中～近世の墓塚が合わせて144基発掘された。近世の墓地は貴船寺に伴うもので、埋葬の形式、墓塚の形態は様々である。近世の墓制を知る上で貴重な資料となろう。（柴畠）



▲貴船寺跡航空写真



▲古墳時代1号竪穴住居跡



▲古墳時代埴形
土器出土状況



▲古墳～室町時代溝状造構 右から1号、2号



▲古墳時代 2号掘立柱建物跡

〈墓地の調査〉



▲墓地群発掘状況（調査区東側）



▲墓標基壇（軽石）68号墓



▲墓標基壇（ギョウカイ岩）62号墓



▲墓標基壇（上部はギョウカイ岩、
下部は軽石）32号墓



▲墓標上部の基壇 52号墓
侧面「寛保三年正月十二日」
正面「千山寺奉土」



▲139号墓（方形タイプ）
床面に銅製の金具が検出された。



▲111号墓（横丸方形タイプ）



▲140号墓（円形タイプ）



▲41号墓（二段掘りタイプ）



▲37号墓（横穴タイプ）



▲5号墓（蓮華鏡半周の蓋棺）
内部より、金・銀・銅の金具が検出された。



▲50号墓 人骨出土状況
頭は西側を向いて座っていたものと考えられる。



▲35号墓 人骨出土状況
下部に箱式木棺の底板が残存し、
その表面に銅鏡が3枚付着していた。



▲45号墓 木棺出土状況



▲54号墓 木棺出土状況



▲中世の青磁各種
中世の溝状遺構や包含層内から出土した。



▲墓壇内出土陶磁器（湯呑、香炉、茶碗）
薩摩焼や肥前系磁器が用いられた。



▲墓壇内出土仏飯器（薩摩焼）



▲墓壇内出土煙管
市内郡元町所在の松原地区第3遺跡で
鷹物工房址が発見されている。



鏡とかんざしかんざしは
一〇〇号墓出土



▲墓壇内出土銅錢（六道錢）

どの墓からも7枚ぐらい
ずつ出土している。右上の
ものは柏の木材に金具で
留めてある。



▲数珠
50号墓内
直徑 3 mm

VIII. 都城市 昭和59~63年度埋蔵文化財発掘調査一覧表

遺跡番号	遺跡名	所 在 地	調査年月日	調査員	時 代	備考
未 定	糸子野地下式横穴墓	糸子町29457-1	S.59.5.24~5.28	矢部喜多夫	古 墓	
10028	塩池底下式横穴墓	下水流町字塩池	S.59.7.24~7.27	"	古 墓	
4005	松原地区	郡元町字松原	S.60.4	"	中~近世	確認
4005	松原地区第1	郡元町54他14棟	S.60.7.9~11.22	重永 卓爾 矢部喜多夫	中~近世	
4005	松原地区第2	郡元町字松原	S.60.10	矢部喜多夫	圓文・中世	
4010	祝吉第3遺跡	早水町字天神原、池島、祝吉	S.60.12	日高 孝治	中 世	
6009	中尾山・馬渡	賀源町1624	S.61.5.12	矢部喜多夫	古墳~中世	
6005	瓦 枝	南橘町3888-1	S.61.5	北野 泰道	弥生~古墳	
6009	中尾山・馬渡	賀源町1624	S.61.7.17~12.26	矢部喜多夫	圓文・弥生・古墳・平安・中世	
4005	松原地区第3	郡元町54-6	S.61.8.4~9.30	守路 雄一	中~近世	
10065	宝 山	丸谷町2351-1	S.62.5~62.6	矢部喜多夫	圓文・古墳・中世	確認
4005	松原地区第4	郡元町3105, 3106, 3107	S.62.5.20~6.30	桑畠 光博	中~近世	
5033	竈尾・立野	今町7020-1	S.62.11.30~12.5	矢部喜多夫 桑畠 光博	「五十石式土器」出土遺跡	確認
7079	安久中塚	安久町字中原	S.62.12.7~12.10	"	圓 文	
5029	母智丘原第1	横市町6.091	S.63.1.18~1.23	桑畠 光博	弥生・平安	
6006	加 治 頂	南橘町2066-21	S.63.1.25~2.1	矢部喜多夫 金村 九博	弥 生	
7041	貞船寺跡(尾崎第1)	南北町字尾崎	S.63.3.10~3.12	久保田喜多夫	中~近世	確認
5027	都之城本丸跡	都島町803	S.63.3.15~3.17	桑畠 光博	中 世	確認
4006	久 玉	郡元町3101, 3105, 3062	S.63.3.28~3.31	矢部喜多夫 桑畠 光博	中~近世	確認
4012	向 原	三勝町大学宮狩字植木2945他10棟	S.63.4.21~4.30	久保田喜多夫	弥 生	確認
5027	都之城本丸跡	都島町803	S.63.5.16~8.16	桑畠 光博	中~近世	
10028	志和池1号塚	下水流町2554	S.63.5.31~6.4	矢部喜多夫	古 墓	確認
4006	久 玉	郡元町3060他16棟	S.63.6.3~6.15	"	古墳~中~近世	
5030	大岩田町ノ前	大岩田町5449他6棟	S.63.8.1~8.5	"	弥生・中世	確認
7041	貞船寺跡(尾崎第1)	梅立町1423, 1424, 1425	S.63.8.4~10.4	桑畠 光博	圓文・古墳・中~近世	
10065	堂山(北地区)	丸谷町2351-1	S.63.10.20~12.13	"	古墳・平安	
5030	大岩田町ノ前	大岩田町5449他6棟	S.63.11.10~12.8	重水 卓爾	圓文・弥生・中~近世	
4005	松原郷V	郡元町3114, 3115, 3116	S.63.11.16~12.20	矢部喜多夫	中~近世	

* 遺跡番号は市内遺跡詳細分布調査による。

* 「確認」とは試掘調査のこと。

**都城市文化財調査報告書第10集
昭和63年度遺跡発掘調査概報(図録)**

大岩田村ノ前遺跡・久玉遺跡
松原地区第V遺跡・都之城本丸跡
貴船寺跡(尾崎第1遺跡)

発行年月 平成元年3月
発 行 都城市教育委員会
印 刷 (有)文昌堂

